

2012 クライミング日本選手権 “マムートカップ”

【視覚障害者部門】ルール補則

基本的なルール

トップロープによるオンサイト競技 (IFSC リード競技規定準拠)

- 男女、クラスともに混合で競技をおこなう。
- すべての参加者が同一ルート、同一ルールで競技をおこない、総合で順位を競う。

その他のルール

競技順

- 予選・決勝共に、男女混合で B3、B2、B1 の順で登攀。
- 決勝は各クラスごとに、予選成績の低い選手から登攀。

決勝

- 決勝進出は全 6 名。
- 以下の 1～3 の順に決定する。
 1. B1～B3 各クラスの 1 位獲得選手 →3 名が確定
 2. 男子・女子それぞれの 1 位獲得選手
※ この時、ある選手がクラス及び男女でともに 1 位となっていた場合、そのクラス、性別で 2 位の選手の決勝繰上げ進出は行わない →ここまでの 3 名または 4 名が確定
 3. 上記の 1、2 で決勝進出が決定した選手をのぞいた中で、最も上位の予選成績を持つ選手から順に決勝進出者を決定する。
※ この時、決勝進出ライン上に同着の選手があった場合、その選手は全員決勝に進出できる。

競技

- 予選決勝ともにオンサイト方式で試登はなし。
- アイソレーションルームへの隔離あり、実際に壁の下に立つオブザベーションはなし。

オブザベーション

- アイソレーション内で、競技開始の1時間前から、課題を解説する録音素材を繰り返し放送し、オブザベーションを行う。解説する録音内容は、以下の通りとする。
 1. 壁の形状
 2. 大まかなライン
 3. 各ホールドの方向(クロックポジションにて)
 4. 各ホールドの距離(「隣」、「近く」、「ふつう」、「遠く」、「すごく遠く」、の5段階)
 5. 各ホールドの形状(ガバ、カチ、スローパーなど)

※過去の大会で使用していた、立体コピーのルートマップは配布しない。

競技中のホールド位置情報の補助

- 主催者の判断により、以下3点の情報を登攀中の選手にマイクなどを通じて補う。
 1. 微調整
「もう少し上(例)」など、伸ばしている手がホールドに向かっているものの、ずれている場合。
 2. 修正
「その方向にはありません(例)」など、誤ってホールドのない場所を探している場合。
 3. ボルトを踏んだ時
「右足ボルトです(例)」など、ボルトハンガーを手で触る、足で踏むなどが起きた場合。
その際、荷重前に手足を離れたときは、競技続行が可能。指示を無視し荷重をして次の動きに入ると、その選手は競技終了となります。

その他

- リザルトには選手の男女、クラスを明記する。
- 男、女、それぞれに6名以上参加がある場合は、総合順位とは別にリザルトを分離し結果を発表する。
- B1からB3のそれぞれのクラスの出場選手数が、6名以上ある場合は、総合順位とは別にリザルトを分離して結果を発表する。

※ このルール補則は適宜変更となる場合があります。